

1.研究目的

現在日常生活の中で使われているカーテン、壁紙などのグラフィックパターンは主に装飾効果を出すためだけに用いられている。だが、グラフィックパターンで表せる効果は装飾効果だけなのだろうかと考え、研究目的とした。

2.調査と分析

グラフィックパターンには、基本のパターンがあり、チェック、ストライプ、ドットなどで、その中でもチェックでは「ギンガムチェック」、「タータンチェック」、「市松模様」など細かく分かれている。そして、年代別、国別の伝統パターンなど、種類は様々である。これらのパターンを調べ、グラフィックパターンの特徴は、

- ・「個々のパターンと全体の見え方の違い」
- ・「無地よりも目に入りやすいから目立つ」
- ・「パターンによって印象が違う」

であることがわかった。

例えば、個々のパーツでは一つのパーツに意味を持っているが、全体のパターンとして見ると、個々のパーツの意味が薄れ、印象が違って見える。それを活用し、機能として使えないだろうか。

3.コンセプトの立案

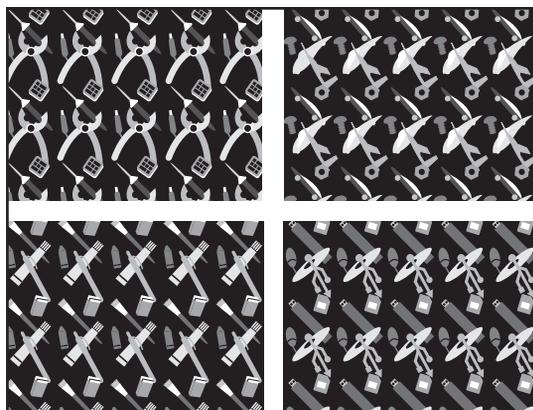
装飾効果だけではなく、全体としてのイメージを大切にしつつ、個々のパーツからの情報を有効利用した、機能を持ったグラフィックパターンを制作する。例えば、グラフィックパターンを有効利用できるものとして、会社の制服、動物園の作業衣、学校のスタッフユニフォームなどがある。そこで、サレジオ高専のオープンキャンパスや学園祭で使えるスタッフユニフォームを使ってみようと考えた。他のデザイン系大学のオープンキャンパスのユニフォームを見たところ、意外にも落ち着いたデザイン、配色で地味なものが多かったので、パターン柄ユニフォームにすることにより、サレジオ高専と他大学の差別化を計り、印象の強いものにできると思った。

4.デザイン展開

サレジオ高専の4学科「デザイン」、「情報」、「電

気」、「電子」のパターン4種類をデザインする。全体として一つの統一イメージを持ちつつ、個々では違う意味を持たせられ、学科の違いを伝えられるようなものにする。そのために、遠くから見ると4学科同じ柄に見せるようにし、近くで見ると、それぞれのパーツが違う用にデザインした。よって、使う配色は各学科同じ色を使い、パーツの配置、形もそれぞれ似せる様にした。

5.完成図



6.結論

学校外の人と学校関係者に、「遠くから見て4学科の柄が同じように見えるか」「個々のパーツがそれぞれ何なのか」「何学科かわかるか」をアンケートでとった。特に多かったのは、

- ・電子科と電気科が逆に認識される
- ・電気科のパーツがわかりにくい

などである。

全体のパターンとして見ると、4学科とも同じ柄に見えるが、全体のパターンの配色を重要視しすぎて、個々のパーツのひとつひとつの具体化されたものが何なのかわかりにくくなってしまったという結果になった。

7.参考文献

近藤修,2004,『1000 PATTERN-古代から現代まで 世界の模様1000選-』DesignEXchange

サレジオ高専,2007,「サレジオ高専」

(<http://www.salesio-sp.ac.jp/February23,2007>).